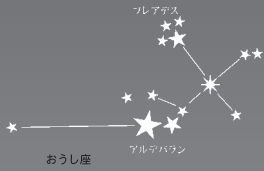


ポラリスを仰ぐ北の大地から



映画のロケ

上川郡中央医師会 会長 藤原 正文

今年の3月頃、美瑛町役場の人から電話があり、「今度、松竹映画が美瑛町を舞台とした映画を制作することになり、先生のクリニックを映画のロケで使いたいのですがよろしいでしょうか」とのこと。当然断る理由もなく、「どうぞどうぞ」と二つ返事。

その直後から妄想が始まる。エキストラとして出演できるのかな？ 医学的考証を頼まれたり、万が一、医者役で出演を依頼されたりしたらどうしよう？

監督は山田洋次監督の愛弟子であり『武士の献立』や『釣りバカ日誌』シリーズを手掛けてきた朝原雄三監督。

3月末頃、監督さんと撮影スタッフが下見に来院して、院内の部屋を一つ一つ見ていった。当初ロケの予定になかったが、「ぜひ先生の診察室も使わせてください」と言われた。ここで主人公の家族が医者に告知されるシーンを撮るとのこと。

後日そのシーンの台本が送られてきて、その告知される病名は“拡張型心筋症”であった。台本では短いセリフが二つだけで、病名も循環器内科にふさわしく(?)、この医者役はまさしく自分が適役かもと妄想がさらに膨れ上がった。

5月初め頃に監督さん達が再度下見に来られ、告知シーンの打ち合わせを行った。残念ながら、医者役は俳優さんであった。構図を決めるために診察室では実際に机上のシャウカステンをつけて、撮影班の人がいろいろな角度から写真を撮っていった。

実は、主人公の家族に告知するシーンは別の病院の診察室が使われる予定だったがフィルムレスのため、シャウカステンがある当クリニックに変更されたとのことであった。最近、レントゲンフィルムの自動現像機が故障で動かなくなることが度々だったが、まだ部品交換で使えていたところだった。診察室でシャウカステンを使っているのはもう時代遅れかもしれないかなと思い、監督さんに恐る恐る聞いてみた。「時代設定はいつですか?」「現代です」それ以上は聞かなかった。

映画は2015年公開予定です。

我が家のペットは…

上川北部医師会 会長 吉田 肇

21歳になる長男には人間以外の毛のあるものにアレルギーがあって犬や猫が飼えません。そのため息子は地上の毛のない生き物をかたっぱしから飼い、「三日で飽きてはママが育てる」を繰り返してきました。

魚類は金魚から始まって熱帯魚、海水魚まで手を伸ばし、カメはミドリガメ、スッポン。両生類は沖縄で捕まえたカエル、ハツカネズミを食べる外国産のカエルもしばらく飼っていました。昆虫はそれこそ数知れずですが、一番感動したのは「ヘラクレスオオカブト」の孵化でした。1,500円の幼虫が、上手く孵化したら80,000円で売れると聞いてちょっとわくわくしました。ケースの土を時々取り替えて1年半で成虫になるらしいのですが、半年ほどしたとき、ひっくり返した土の中からおしぼりほどもある芋虫が出てきて、世話役の「ママ」はそれこそびっくりかえりそうになりました。これは80,000円も夢ではないと、総額320,000円の芋虫を熱心にお手入れしたのは言うまでもありません。しかし、たった一匹無事孵化したヘラクレスは角が曲がっていて、とても売り物にはなりませんでした。

やがて息子は「ヒョウモントカゲモドキ」の夫婦を手に入れました。これがヒットだったのです。「啼かない、臭わない、散歩不要」エサは冷凍のコオロギを時々。脳みそがほとんどないので、懐いたり、芸をする楽しみはありませんが、ものぐさにはぴったりのペットでした。次の「フトアゴヒゲトカゲ」が今や我が家に居座り、私の妹は歯医者をしてながら、「おかあさん」になっています。主食はペットフードやコオロギですが、食べるから、ということであるこやケーキ、イカの粕漬けまで食べさせています。うちの家内も相当ずぼらで、ペットを次々に庭の「セメタリー」行きにしていますが、妹の溺愛ぶりも目にあまるものがあり、この二人のもとで、ペットならぬ息子がそこそこまともに育ったことを感謝しております。

ペットは飼いたいけれど犬や猫は、とお思いの方、爬虫類はおススメです。

